

再開 14時10分

○神谷議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、2番、石松修議員の質問を許します。石松修議員、どうぞ。

○2番(石松修議員)

皆さんこんにちは。会派宗像志政クラブの石松修です。今回は、防災についての質問をさせていただきます。

それでは、通告書を読み上げいたします。

災害に備えて防災体制の強化を。

近年、地震、豪雨や大雪などの災害が多発しています。こういった災害から市民の命を守るためには、国、自治体による災害対策はもちろんのこと、市民一人一人の災害に対する心構えや知識と備えが重要となっています。市が進める「定住都市むなかたの実現」のため、防災・減災対策により力を入れ、市民の生命と暮らしを守るまちづくりを推進することが求められていると考えます。

以下、質問を行います。

(1)災害時の自衛隊派遣要請依頼、受入れ等について。

1)災害対策基本法第68条の2第1項には「市町村長は、当該市町村の地域に係る災害が発生し、またはまさに発生しようとしている場合において、応急措置を実施するため必要があると認められるときは、都道府県知事に対し、自衛隊法第83条第1項の規定による要請をするよう求めることができるとありますが、具体的にはどのような状況で、どのように県知事に要請を依頼するのか。

2)災害が起きた際、通常の通信手段が使用できないおそれがありますが、どのような対策をしているのか。

3)令和4年12月、市の主催で「みんなで知ろう！自衛隊」が宗像ユリックスで開催されたが、イベントの目的、状況、効果等は。

(2)防災士について。

1)「令和4年度福岡県防災士スキルアップ研修」が開催されています。市内在住の防災士への周知、参加状況は。

2)市は防災士へどのようなスキル、役割を求めているのか。また、防災士とコミュニティ運営協議会、自治会との関わりはどのようにあるべきと考えているか。

(3)防災マップは市民に風水害や地震に関する情報を提供し、災害に対して事前の備えを提供する重要なツールである。現在の防災マップの提供状況、今後の計画は。

(4)災害に備えた備蓄について。

1)市は災害対策でどのような備蓄を行っているか。また、避難所等に設置している防災倉庫にはどのような備蓄がなされているのか。そして、どのように維持管理しているのか。

2)宗像市防災対策基本条例第5条第1項には「市民は、自助の理念にのっとり、平常時から防災に関する知識及び情報を収集することにより、防災知識及び防災意識の向上に努めるとともに、災害時における自己の安全の確保に努めなければならない」とあり、また、第2項(5)には「食品、飲料水その他の生活必需物資の備蓄」と明記されています。これを踏まえ、市は市民にどのように周知し、市民へ協力を求めているの

か。また、具体的にどのような備蓄が望ましいのか。

以上、よろしくお願いいたします。

○神谷議長

石松修議員の質問に対し、執行部の答弁を求めます。

的野危機管理担当部長。

○的野危機管理担当部長

それでは、(1)3を除きまして、私から順次お答えします。

まず、(1)の1)、自衛隊の派遣要請についてですが、状況につきましては、宗像市地域防災計画におきまして、災害で人命財産の保護のため自衛隊の応援を必要とする事態が発生したときと定め、この事態が公共性、緊急性、非代替性の3要件を満たす場合に派遣を受けられるものとされております。

また、県知事への要請依頼につきましては、電話によるものとしております。

次に、2)の通信手段が失われた際の対応についてですが、他の通信手段として、県が整備した消防防災無線や国が整備した地域衛星通信ネットワークを利用した連絡が可能です。

続いて(2)の防災士についてお答えします。

まず、1)の研修会の周知についてですが、自主防災組織等窓口としましては各地区のコミュニティ協議会事務局を通しまして、防災士資格を所有し、地域での自主防災組織等の活動に参加する意思のある方に対して、周知をしております。

また、研修会への参加状況につきましては、今年度10人の防災士が参加されていることを把握しております。

それから、2)の防災士に求めるスキル、役割につきましては、各自治会の自主防災組織での防災活動の中核を担う人材として、防災に関する助言などをしていただくことを考えております。

また、コミュニティや自治会との関わりにつきましては、自主防災組織に役員等で参画し、コミュニティや自治会で実施する防災講座、防災訓練におきまして率先して活動を行っていただき、地域住民の防災意識の向上を図っていただきたいと考えております。

続きまして、(3)の防災マップの提供状況と今後の計画についてでございます。

現在、冊子版の防災マップにつきましては、令和元年度に作成し、全戸に配布したものを改定増刷し、新たに転入された方を中心に配布をしております。今後につきましては、今年度から新たな防災マップの作成に着手をしております、来年度にかけ制作し、改めて全戸に配布する計画でございます。

続いて(4)災害に備えた備蓄についての1)市は災害対策でどのような備蓄を行っているか、また、どのように維持管理しているのかについてでございますが、市では各避難所に防災倉庫を設置し、アルファ化米、水、粉ミルク等の非常食や毛布等の避難所生活に必要なもの、発電機、投光器、テント等の避難所運営に必要な資機材を備蓄しております。また、非常食につきましては、賞味期限を迎えるものにつきまして、定期的に入替え作業を行っているほか、出水期前に市担当者による確認や地域での防災訓練や防災講座の際に、資機材の定期点検を兼ねて資機材の取扱い訓練を実施するなどし、管理を行っております。

次に、2)の市民の備蓄につきまして、市民にどのように周知し、市民へ協力を求めていくか、また、具体的にどのような備蓄が望ましいのかについてでございます。

各家庭での備蓄品や非常時持出品の準備につきまして、防災訓練、防災講座の際や、全戸に配布している防災マップで周知をしております。また、各家庭には、食料品や飲料水について災害復旧までの数日間分を備蓄していただくことや、各避難所の備蓄品には数量に限りがあるため、基本的には各自で必要な生活用品を持参していただくようお願いをしております。生活に必要な物資は人それぞれで異なるため、平時

から自分は何が必要かを検討した上で準備をしていただくことが望ましいと考えております。

以上です。

○神谷議長

八木市民協働環境部長。

○八木市民協働環境部長

それでは、次に、(1)の 3)令和4年12月に宗像ユリックスで開催した災害支援応援企画「みんなで知ろう！自衛隊」についてお答えいたします。

まず、イベントの目的でございますが、宗像市地域防災計画の中に、大規模災害発生時に自衛隊が支援活動を行う場合に宗像ユリックスが防災拠点になることを明記しています。具体的には、陸上自衛隊飯塚駐屯地の災害支援を担当する部隊が支援活動に来ていただくことになっております。昨年この部隊の担当者ユリックスで立会を行った際に確認したところ、過去に自衛隊の災害支援部隊と災害支援用車両等が実際に宗像ユリックスに来たことがないとのことございました。このため災害発生時に確実に実効性のある体制の確認及び訓練といたしまして、宗像ユリックスまで部隊及び車両等が来ることになりました。そこでこの機会に、市民の皆様が自衛隊の災害支援活動への理解を深めていただくとともに、宗像ユリックスにおけるにぎわいづくりを実現することを目的といたしまして、災害支援応援企画「みんなで知ろう！自衛隊」を開催いたしました。

開催状況につきましては、当日は天候にも恵まれ、結果として1日でおおよそ4,800人の来場者ございました。このイベントに参加した多くの市民の皆様から、好評な意見をいただいております。また、協力いただいた自衛隊からも、市民に自衛隊の災害支援活動を理解いただく機会が設けられたことについて、感謝をいただいている次第でございます。

効果につきましては、まず、自衛隊の災害支援を担当する部隊及び車両等が実際に宗像ユリックスに来たことにより、大規模災害時に向けたより具体的な訓練が行われたことが最も大きな効果だと考えております。また、実際に自衛隊員とのやり取り等を通じまして、市民の皆様が自衛隊の災害支援活動について理解する機会となったと考えております。そして、来場者数も多かったこともございまして、ユリックスにおけるにぎわいづくりも実現することができました。特に親子連れも多く、子育て世代にも喜んでいただいたイベントではなかったかと認識しております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

御答弁ありがとうございました。

この自衛隊のイベントは、私も見学をさせていただいております。

資料を見ていただきたいんですが、熊本県で先進建設・防災・減災技術フェアin熊本、これ2021年で、昨年も行われております。おとし私が行ったときの写真なんですが、講演会がありまして、その中で自衛隊の災害派遣活動について自衛隊の方から説明がありました。会場となっているグランメッセ熊本という非常に大きなところなんですが、ここにも自衛隊の車両が展示してありまして、こういった悪路を走れるような車であるとか自衛隊の救急車とかが展示してありました。熊本は近年地震や水害に見舞われて、非常に意識が高い自治体だと思っております。そういった中で、こういった大きなイベントをこれ実行委員会の中には熊本県、熊本市も入っておりますので、行政もかなり関わってこちらの大規模な防災に関するイベントをされております。

こちらが、私が昨年12月3日にユリックスにお伺いさせていただいたときの写真であります。

この熊本の規模な展示に負けないぐらいの車両が宗像市にもこの規模で来ていただいたという非常に評価できると思います。そして、宗像ユリックスが有事の際の出動要請したときの拠点になるということで、実際にその車が来てちゃんと入れるか、そういったシミュレーションができたというのは非常に評価できると思いますし、市民の方に非常に親しみのある施設ですので、そこで開催されたことに関しては非常に評価するものであります。

私も本当に興味深く見させていただいたんですが、こちらは自活車ということで、隊員の方が寝泊まりする車になっております。中がこんなふうになっていて、狭いんですけど、こういった形で、隊員の方も支援に来ていただいてしっかり夜は休んでいただかないと昼間の行動に支障があるかと思えます。こういったことが分かりました。

また、給水車、5,000リッターの水タンク車というのが来ておりました。あとこれは衛星通信装置を兼ね備えた車ということで、あと偵察用オートバイということで、オフロードのバイクですね。災害で道路とかが壊れたときもこういったバイクであれば、現地を確認に行けるということです。

あとこちらが炊飯の車です。こういった形で200人分が45分以内に調理ができるということで、非常に頼もしい車であるなということを感じました。

そして、飛行機です。T4練習機というものが飛来されました。これは私もこのチラシを見て知ったんですが、沖ノ島を目標にして飛行訓練を行われているということで、T4練習機というのは皆さんあんまりなじみがないかもしれないんですが、ブルーインパルスで使われている機体ということです。

あと、西部航空音楽隊ロビーコンサートということで、こちらのほうのコンサートも行われておりました。

1点この飛行機であるとかロビーコンサート、防災とは直接は関係はないんですが、こういった飛行機を見に行きたいとかコンサートを聞きたい、そういった多くの市民の方に興味を持っていただいて会場に来ていただく。コンサートが目当てであればその後いろんな展示を見ていただく、そういった形で防災に対する意識や自衛隊に対する理解を深めていただくということで、こちらのイベントは非常に有効であったと思います。

またちょっと深掘りさせていただきたいんですが、こちらの自衛隊はどちらの部隊が来ていただいたんでしょうか。

○神谷議長

八木部長。

○八木市民協働環境部長

今回イベントに参加した部隊でございますが、陸上自衛隊飯塚駐屯地所属の部隊、それと航空自衛隊西部航空方面隊の春日基地、芦屋基地所属の部隊と伺っております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

先ほどの車で、私、大体ああいう車って全部陸上自衛隊なのかなと思っていたんですけど、航空自衛隊のほうも様々な装備を持っているんだなということで、理解が深まりました。

また、各車のところには担当の隊員がいらっしゃいまして、非常に丁寧にいろいろ説明をしていただきました。そういった隊員の方とも触れ合いを通じて、そういった有意義なイベントができたと思います。

今回この自衛隊のイベントを取り上げさせていただいたのは、昨年、静岡県の方で、大きな台風で大きな災害がありました。自衛隊の派遣の要請が非常に遅れたのではないかと市民の方の不満があったということで聞いております。ニュースとかにもなっております。どうも県知事と市長の仲が非常に悪いと、それでお互いに県知事は市長の連絡を待っていた、市長は県知事から何も連絡がなかったとか、拳げ句の果てが携帯電話番号を知らないとか、もう首長としていかなものかというような、そういった感想がありました。

我が市においては、そういったことがないように、日頃からこういったイベントをしていただいて、準備をしていただいている、そういったことが非常に頼もしいと思っております。

実際に、先ほどどういった場合に派遣の要請をするのかということで、災害で人命財産の保護のため自衛隊の応援を必要とする事態が発生したとき、この事態が公共性、緊急性、非代替性の3要件を満たす場合と、非常に分かりづらいなと思いますので、実際どのような災害が起きた場合はこういった条件を満たすような形になりますでしょうか。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

自衛隊の派遣を要請する事態といたしましては、大規模な地震のほか、広範囲の浸水被害ですとか土砂崩れなどが発生しまして、被災者の救助ですとか避難者の支援、それから災害の応急復旧などに、自治体だけでは十分な対応ができない事態が発生した場合などが想定されるかと思っております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

本日もお昼のニュースで、県内に鳥インフルエンザが発生したということで、既に自衛隊に災害対応を要請しているということでニュースがございました。そういった事態が起こらないことが一番の願いではあるんですが、必要となった場合は、直ちに派遣を要請できるように、平時から十分な準備をしていただきたいと思います。これは被害の情報収集などを的確に行い、速やかに判断することが求められると思っております。

実際に連絡する手段なんですけど、様々、二重三重の備えがあることが分かりました。

あと、災害時に市が避難所を開設するんですけど、その場合、どのような通信手段で連絡を行っておりますでしょうか。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

現状では、携帯電話による連絡を行っております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

携帯電話、通常は便利なので普通に使えるんですけど、災害によっては使えない場合も想定されるかと思

います。その場合はどのようにされますでしょうか。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

現在の携帯電話網につきましては、災害時による通信断絶時に、移動体通信事業者から臨時の通信回線が提供される仕組みもございまして、比較的災害に強いとされておりますが、これらも失われた場合につきましては、消防団にて運用しております無線機の活用を想定しております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

優先して回線が使える状況で対応していただけることで、仮にそれが使えなくなっても、また、無線などもあるということですね。ちなみに私も携帯電話を持っておりますが、たまにある会社が通信障害を起こしたとか話題になります。私もそういった事態を想定して、通常に使っている回線とは別にもう一つ携帯電話会社と契約をしております、使った分だけお支払いするというので、普段は料金がかからないんですが、何かのときはそちらに切替えができる、また、Wi-Fiがつながる状態であれば、050電話であるIP電話とか、あくまでも個人の対応なんですけど、個人でもそういった対応ができます。今後も連絡手段というのは本当に大事ですので、しっかり備えていただきたいと思います。

最近、スターリンクという人工衛星を利用したインターネット回線が注目されています。地上にアンテナを設置したら人工衛星から電波を受信して、ルータを経由してインターネットに接続する仕組みとなっております。上空が開けていて、電源が確保できれば、インターネットの回線が使えると。これ実は、ウクライナの侵攻でウクライナの通信手段が攻撃でダウンしたときに提供されまして、それが活用されたということでも注目を集めています。

宗像の場合は大島・地島の離島もありますので、通信手段の確保っていうのは本当に大事です。避難所で、避難してきた方が携帯電話つながらなくなっても、例えばそういった設備があれば、Wi-Fiが使えるれば、例えばLINEであるとか、そういったアプリを使って安否の確認とかができる、そういったことも、今いろんな技術の進歩でいろんな選択肢があります。

これに関しては、ちょうど東京都が試験運用で予算を計上したということで聞いております。我が宗像市も様々な情報を収集していただいて、有事にしっかり備えていただきたいと思います。

次に、(2)の防災士についてお話をさせていただきたいと思います。

私も防災士の資格を以前取得しまして、今回の福岡県の防災士の研修に参加させていただきました。こちらの写真なんですけど、これは人工的に瓦礫などを設置してありまして、ここに救助をする訓練であるとか、担架で運ぶ訓練であるとか、ボールを使ってこの大きなコンクリートブロックをいかに動かすのかとか、あとは座学で災害図上訓練などを行いました。

防災士の資格も、取った後なかなかそれをどう活用するかというのは皆さん思われているんですが、今回、県の主催で研修がありましたが、こういったふうに参加していただいて、また、自治会やコミュニティでまた還元していただければいいなということを自分も思っております。

この防災士の活動について、現在どんな活動されているのか、もし把握しているものがあれば教えていただければと思います。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

これは地域によって異なりますけれども、コミュニティの防災訓練を計画されたり、地区防災計画の策定に携わるなど、地域での防災活動に深く関わっていただいております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

ちょっとばらつきがあるというのがあるかと思うんですが、この防災士の活動についてどのような課題があって、今後またどのように取り組んでいくのかお尋ねしたいと思います。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

まず、地域での防災士の活動についての課題でございます。

地域の特性に応じた活動を行っていただいている関係で、地域によって防災士の関わり方に差が生じていると感じております。今後の取組といたしましては、自主防災組織長の会議などで、それぞれの地域の防災士の活動情報を共有するなど、さらなる活動の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

せっかく資格を取られたので、資格というのはやっぱり有効活用してその存在意義があるのかなと思います。私の地元の自治会でも、区の役員と防災士の方、そして民生委員の方との定期的な会合をもちまして、自治会独自の防災マップ、市の防災マップをベースに、自治会、どこの、例えば隣組にはどういった危険があるのか、もう自治会単位ですと結構具体的に誰々さんの家は引っかかっているとかそこまでのレベルで把握をすることができます。地域の実情が違います。私の住んでところは昔からの集落、田園地帯の中にだんだん家が建っていったようなところなんです。住宅地、団地の自治会などはある意味安全で、多少雨が降っても土砂災害の危険もなければ浸かる危険もない、そういったところだとまた違う、例えば地震に対する備えとかそういったところに力を入れられるのかなということは思います。各それぞれの地域の実情に応じて、防災士の皆さんの活躍を期待したいと思いますし、市としても積極的に情報発信やサポートをしていただきたいと思います。

それでは、(3)の防災マップです。

現状の防災マップは、最大想定規模に被害の想定図や避難所の場所、災害に対する持出品の例示、避難情報の説明等が掲載されております。一方で、平時からの備えや長期の避難に関する情報が不足しているように感じます。また、市のホームページ、これ防災専用のページを設けていただいておりますが、災害の備えに対する情報が不足しているのではないかと思います。これらについて、今後どのように改善をされる予定でしょうか。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

御指摘のとおり、現在の防災マップ、ホームページにつきましては、平時の備えに関する情報が不足していると感じております。このところにつきましては、来年度に計画している新たな防災マップの整備の中で、ホームページでの展開を含めまして、改善を図ってまいりたいと考えます。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

今議会で審議させていただく令和5年度の予算案についても、この防災マップの件は予算を組んでいただいておりますので、より充実した防災マップをつくっていただいて、それが市民の皆さんにしっかり活用できるものを期待したいと思います。

(4)の備蓄についてお話をさせていただきたいと思います。

こちらは宗像市の防災マップを私今日持ってきたんですが、この後ろに非常時の持出品の準備アンドチェックということで書いてあります。ため池のハザードマップのほうにもそういったものが書いてあります。ちょっと見ていただきたいんですが、これは今ホームページの確認ができるため池ハザードマップの裏表紙から、どんなものがあるかということで抜き出させていただいております。

携帯用のラジオであるとか衣料品、貴重品、懐中電灯、非常食品と、あとその他必要となるものがリストアップされて、チェックリストとして載っております。水一人1日3リットルを目安にということで、あと非常食品、燃料カセットコンロ、ガスボンベ、その他ということで、こちらのほうが書いてあります。あと、外国人の方もいらっしゃるんです、多言語化防災マップということで、こちらのほうにも非常持出品が例示してあります。

こちらを見た感じでは、いろんなリストアップはしてあるんですが、どの程度備蓄すればいいのかという視点が抜けているかと思えます。私も今回、この一般質問するに当たって、我が家の備蓄品をやはりチェックをいたしました。ある程度水であるとか、カセットコンロ、カセットコンロのガス、アルファ化米、缶詰、そういったのをある程度思いつくままに準備をしていたんですが、やはり漏れというのが出てくるのかなと思います。先ほどのチェックリストでまたチェックしていったら項目は埋められるんですが、ではどのくらいの量を準備すればいいのかというところが分かりづらいなという感じがしました。

これ別の自治体なんですが、東京都が東京備蓄ナビというホームページをつくっておりまして、こちらで家族の構成などを入れると、どのような品物をどのくらいの量を備蓄すればいいのか教えていただくような形です。少し紹介をさせていただきたいと思います。

いつか来る災害に備えようということで、今すぐ備蓄を始めるということで、まず、あなたと一緒に住んでいる人のそれぞれの性別年齢を教えてねということで、まずは4人家族で、まず、1人目ということで、これ4人分入れるんですが、これ私男性で18歳以上の成人で登録をいたします。これが4人分、家族の分を登録して、あと戸建てかマンションなどの集合住宅なのかその辺りを選択するようになっております。最後に、犬や猫などの飼っている動物、ペットも考慮されております。うちは犬とか猫はおりませんが、これを入れると、三日分の水や食料は大体どのくらいの量があるのかということをお教えしてもらえます。こちらに、成人男性と成人女性と子ども中学生以上の女性、中学生以上の男性4人の場合ということで、水が36リットル、缶詰が12缶、チーズ・プロテインバーが4パック、即席麺が3パック、お菓子3パックなど、そういえばこんなのもあったほうがいいのかということがあります。ここまで具体的に数が出ると、やっぱり準備するとき

非常に参考になるのではないかと思います。

あとその下のほうに衛生用品ということで、ウエットティッシュであるとかコンタクトレンズの液、あと簡易トイレ、マスクや常備薬といったものが例示されております。

あと、生活用品としてカセットコンロ2台です。これはうちには一応、古いのも入れれば2台以上あるんですが、4人であれば1台あればいいのかなと思ったんですが、やはり2台あったほうがいいのかということに改めて思いました。で、使い捨てカイロであるとか、懐中電灯であるとか様々な物が細かく提示してくれます。女性用品ということで、生理用品などもチェックが入っております。

すごいなと思ったのが、その後そのまま通販サイトまで紹介してもらって、例えば水36リットル、アマゾンや楽天、ヤフーショッピングなどでそのままその画面に飛んで購入することができるということで、このホームページは民間委託されてますので、さすがにその辺りはうまく活用されてあるんじゃないかということを感じました。

また別の視点で調べてみたいと思ひまして、高齢者の女性、成人女性、あと赤ちゃんがいる場合、ペットがいる場合にどのようなものが追加されるかというのをちょっと調べてみました。そうしたら、乳幼児用品ということで、粉ミルクのスティックタイプ42食、おむつ70個、液体ミルク、あとお尻ふき、使い捨ての哺乳瓶42個、こういったのが挙がっております。

あと高齢者の方には、おかゆであるとか補聴器の電池、入れ歯の洗浄剤、あと処方薬、その下にペットということで、ペットフードであるとかペット用のトイレ用品、そういったものが挙げられております。

これをそのまま宗像市もつくってほしいというわけではありません。こういう便利なサイトもありますし、もう少し具体的に、例えば成人男性一人であれば1日分これだけの量があって、家族であればこれだけの分が必要になりますと、ある程度そういったものを示していただければと思います。

農林水産省が、国の食料を管轄しているとこなんですが、「災害時に備えた食品ストックガイド」というのを準備してあります。大体、家に備蓄している食料が使えるというのは、水や電気が止まった場合で家が無事である場合かと思ひます。実は最近やっぱりコロナで自宅で療養する方もいらっしゃる時に、こういった食料があればよかったのではないかと思ひた方もいらっしゃるかと思ひます。この辺りの情報が今、市のホームページでは不足しているのではないかということを感じましたので、できればこういった農林水産省のホームページ、これは国の分は自治体で紹介ができると思ひますので、家庭備蓄の例ということで、量の考え方とか違う部分もあるんですけど、目安としてこういったのを、市が1からつくる必要ありませんので、うまくこういうのを活用していただいて、備蓄の重要性というのを示していただきたいと思ひます。

先ほど、備蓄品の非常食をストックしていただいていることなんですが、避難者の方いろんな方がいらっしゃるし、アレルギーをお持ちの方もいらっしゃいます。そういった方は食べられる物に制限がかかったりするわけなんですけど、その辺りの対応というのはいかがでしょうか。また、避難が長期化した場合の対応というのはいかなるような感じになりますでしょうか。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

まず、アレルギーの対応なんですけれども、現在、備蓄しております非常食につきましては、例えばアルファ化米については特定原材料、いわゆるアレルギー物質のうち28品目を使用していない製品を採用するなど、食品アレルギーへの対応をとっております。

それから、避難が長期化した場合につきましては、より細やかな対応が必要になると考えております。現時点で詳細な仕組みは構築できておりませんが、物資の確保、供給を検討する中で、アレルギー対応の視

点を含めまして、災害時の物資提供協定を結んでいる事業者などの関係者と協議してまいりたいと考えております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

アレルギーはやはり命に関わることでありますので、こういった状況、避難せざるを得ないような状況になったときに、その辺りをきちんと意識していただいて、今後も災害に備えていただきたいと思います。

私のほうでも非常用の非常食いろいろ調べさせていただいたんですが、非常食に関しては、アレルギーの対応というのは表に書いてありまして、そこである程度選別ができるかと思えます。ただ、いつまでも長引いた場合、いつまでもそれだけというわけにいかないし、炊き出しであったりとかお弁当の配給であるとかそういったときに困らないように、対応ができるように準備を進めていただきたいと思えます。

先ほど備蓄品には粉ミルクもあるということでお聞きしました。災害時、液体ミルクというのがここ最近日本でも承認が下りて、準備できるようになっておりますが、液体ミルクというのは準備されておりますでしょうか。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

液体ミルクにつきましては、保存期限が短いことから、現在では備蓄をしておりません。ただ、液体ミルクは災害時の授乳の負担が軽く、また、品質の改良も進んでおりますので、今後、製品開発の動向を見ながら、備蓄について検討してまいりたいと考えます。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

やはり将来のある赤ちゃんはしっかり救っていただきたいと思えますし、そういった災害で非常にお父さん、お母さんの負担も重くなると思えますので、期限の関係で備蓄とかなかなか難しいかもしれませんが、提供できるように今後も検討をしていただければと思います。

先ほど、赤ちゃんがいる場合の備蓄の中に、使い捨ての哺乳瓶が書いてあったんですが、あれが赤ちゃんのいる家庭で現実的にあそこだけの数を保管・用意できるのかというのは私はちょっと疑問に思います。うちも子どもが中学生、高校生ですので、赤ちゃんコーナーを見ることももうなくなったんですが、先日そういったコーナーを見に行き、液体ミルクであるとか使い捨ての哺乳瓶であるとかそういったのをチェックいたしました。使い捨ての哺乳瓶なんかは、逆にこれはやっぱり自治体が準備して、ストックしておくべきものではないかなということを感じております。

赤ちゃんが生まれたときに、ギフトボックスを今送る自治体とかもあります。例えばそういったものを赤ちゃん生まれたときに市が贈呈すると。当然それは備蓄のストックにもなりますし、お父さん、お母さんがミルクつくるのも大変なときに、実際に使っていただく、そういった視点もあればいいのではないかとということで、要望をさせていただきます。

基本的には、備蓄品は市民の方が必要なものを判断して備蓄するのが望ましいということでもあります。こ

これは当然、各家庭の状況ばらばらですので、なかなか難しい部分はあるんですが、平時からそういった意識を持っていただいて備蓄をしていただかないといけないんですが、ローリングストック、非常用の食品というのは結構高かったりするんですが、全部それをそろえて5年に一遍変えるというよりも、ある程度そういったものを取り入れつつも、普段の食材、缶詰であるとかレトルト食品、そんなに5年持たなくて比較的何か月の賞味期限があると思いますので、そういったのを普段から多めにストックしていただくローリングストック、これが非常に大事だと思うんですが、いかがでしょうか。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

議員おっしゃるとおり、家庭でのローリングストックなど、平時からの取組が大変重要だと考えております。これにつきましては、今後、啓発に努めてまいりたいと思います。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

先ほど農林水産省のパンフレットの中に、簡単ローリングストックということで、そのやり方というのが書いてあります。費用・時間の面で普段の買物の範囲で、ちょっと多めに準備をしておく。そして、買い置きスペースを少し増やしておく、そういったことを心がけていただきたい。これは実行するのは市民の皆さんなんですけど、やはり市がしっかりそこを周知していただいて、取り組んでいただく、そこは非常に大事だと思います。

こちらに備蓄食品を用意する際の分類のヒントとして、非常食と日用食品あって、非常食と日用食品、この日用食品はローリングストックを利用していただく、こういったのが大事だと思います。

もう一つ農林水産省のパンフレットで、要配慮者のための災害時に備えた食品ストックガイドというのが、一緒に載っております。この要配慮者という方は、例えば先ほどのアレルギーのある方、赤ちゃんや高齢者の方、こういった方は特にやはり備蓄をしていただかないといけないということが書いてあります。要配慮者用の特殊食品は行政の備蓄も多くないので、自らの備蓄が大事ということでありまして。やはり公助には限界がありますので、なるべくやっぱり自助でできることはやっていただく。

そして、アレルギーの対応、先ほど備蓄食品は比較的そういった記載もありますし、宗像の計画の中にもその辺りの配慮については記載がされてあります。ただ、なかなかそういった方が身近にいないと、実際のところはどうかということも分かりづらいこともあるかと思っております。その中でこの当事者の方に、普段から食べるものってやっぱり苦労されているかと思っております。こういった農林水産省がパンフレットを作っていますよということも含めてお伝えしていただいて、行政もできることはしていただく、そして、一番状況を分かっている当事者の方についてもしっかり備えていただく、そういった意識を持っていただきたいと思っております。

その辺りが、こちら紹介したいんですが、先ほどの赤ちゃん向けの粉ミルクであるとか液体ミルク、高齢者の方の場合は、やはり普段、硬いものを食べられてない方は高齢者用の食材ですね。あと、食べる機能が弱くなった方、あとアレルギーの方、こういった準備をしていただくのが必要かと思っております。

これ最後、先週の土曜日の私の食事です。缶に入ったクリームサンドビスケットを一缶開けてみまして、食事にいたしました。普段、好きなものが食べられて、温かいものを食べられるといったことを改めて、その

ありがたさ、日常のありがたさを実感する機会となりました。缶開けてみて、ああ、これそんなに入ってないなというのが、実は結構空白が多かったんですね。これは物によります。しっかり安全を第一ですので、乾パンなんかは結構きれいに詰まっていたりするんですけど、やはり買ってそのまま保管するのではなくて、一つどんなものか食べてみる。定期的に不便さを味わうということですかね、そういったことで防災の意識というのが高まるのではないかと思います。

その辺りも含めて、何回もお話ししているんですけど、平時の災害の備えの意識啓発や情報発信、この辺りが不足しているのかなということだと思います。今、御紹介させていただいた農林水産省のホームページ、ガイドブック、その辺りはもうそのまま御紹介していただければいいのではないかと思います。まず皆さんやっぱり市のホームページを見られますので、その辺りの必要な情報をしっかり載せていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○神谷議長

的野部長。

○的野危機管理担当部長

大変分かりやすく紹介されているかと思います。早速、市のホームページの更新について取り組んでみたいというふうに考えております。

以上です。

○神谷議長

石松議員。

○2番(石松修議員)

ありがとうございます。

せっかく専用のホームページを持っていて様々な情報が掲載されてあります。今回、私がいろいろ見た中で、ちょっとこの部分を取り入れていただきたいという要望を受け止めていただいて本当にありがとうございます。

私自身も防災士の資格をとりつつ、防災が大事ですということで議員にもさせていただいて、ただそれでもやっぱり自分がいろいろ考えるだけではなかなか難しいことがあります。自分が当事者になって、どのようなものが大事なのか、そういったことをしっかりまた、考えていかなければいけないかと思います。

自衛隊のことも今回取り上げさせていただきましたし、防災士、防災マップ、備蓄食糧の大事さ、ホームページの改善、その辺りを今回は取り上げさせていただきましたが、本当様々な視点があるかと思います。ハード面で水害が起きないようにしていただくのも非常に大事でありますし、ただそれは非常に大きなお金がかかったりもします。この辺りを市民の方に啓発、意識を高めていただく、この辺りも大事な防災対策かと思っておりますので、こちらのほうもしっかり取り組んでいただきたいと思っております。

的野部長におかれましては、この3月で勇退されるということで、最後の御答弁をいただき本当にありがとうございます。部長が勇退されても、組織がしっかり、今日答弁していただいたことを引き継いでいただいて取り組んでいただけるかと思っておりますので、ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

以上で質問を終わらせていただきます。

○神谷議長

これで石松修議員の質問を終了します。

以上で、通告による一般質問を全て終了します。

ここで暫時休憩とします。再開は15時20分とします。